midorinodam.jp MMの場合 MMの対点 MMの対点



2月号の1枚:1年間の安全を祈願して

後継者が育っている

ForesTo Class、森と(為に・共に)暮らすグループ

森を大切に思い来てくれる中高生の人間的な成長には驚かされる。例えば、ForestNovaの場合、在学4年間、「嵐山の森」に通ってきて卒業後は、実社会を体験したOBOGが自分の生まれ育った相模原市の森林を復活させようと1人・2人と「嵐山の森」に戻ってきている。樹木があった「ナノファイバー」などや「日本伝統家屋」が見直されている。自らを磨くことに注力すれば、必ず途は開ける。

森林・林業は50年・100年をかける事業だから日々の糧を得ながら如何に生きるかだが、林業と農業を組み合わせれば可能である。長野県は、そこを上手く熟して林業日本一である。

P.F.ドラッガーが21世紀は激動の時代と予言していたが、正にその様相を呈し始めた。これからの時代、自分の生きる途は「未来に対しても全て自分の事として責任を持たねば」生き抜くことは出来ない。◎西欧思想は、アリストテレス(前332年没)に代表されるギリシャ哲学に始まり

「個」が原点となっている。全ての 事象は、「個」の意識から「総」に 向かう。◎東洋思想は、釈迦(諸説・ 前463年没)の「総」が原点で宇宙 総体との調和の中で人間が生かされていると説いている。自分の考えを何処に置くかを定めねば生き抜くことは難しい。

どちらが正しいかと言う問題ではないが、緑のダムは、「負の遺産を子孫に残さない」と言う「総:和・共生」の考えに収斂して多様な活動をちている。将来を担う当会の若者たちが「ForesTo Class:森と(共に、為に)暮らす」と言う名をつけて個志名にうる。若者にあり、と言う名をでした。を考えるべきできるよりでは、

石村 黄仁(本会、代表理事)

今月の定例活動



2月5日(第一日曜日):

小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上 知足の森/若者の森づくり※今月は3日土曜日に行います

いずれも弁当持参。参加費:400円

2月19日(第三日曜日):

相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動

主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費:400円









[臨時活動]知足の森

1月8日(第一日曜日)

本会では1月第1日曜日は森のしきたりにより定例活動を行っていません。そこで知足の森の活動は次の週に臨時活動として行いました。

今回は年末から打ち合わせを続 けている長福寺すぐ下の沢ぞいの 対応について住職さんと打ち合わ せ、作業を行いました。午前中は 参加する中学生の学校の生徒会で 自然素材のペットボトルキャップ回 収箱を作りたいということで、地 球環境部のメンバーに生徒会役員が いたこともあり、知足の森広葉樹 区画の枝の太さがちょうどよく、 しかも無尽蔵といえるほど持って 帰れると聞いての参加でした。生 徒会のメンバーは必要十分な量持ち 帰れたのでよかったかと思います。 慣れているメンバーはどんどん作業 を進め、ちょっと太くてこれはと いう木は私の方でチェーンソーで処 理するという形で結局いつも通 り、萌芽更新しっぱなしの枝を減 らす、という作業でした。しかしお 昼前に明らかにチェーンソーが切 れなくなり、お昼休みに目立てを 行わないといけないレベルでし た。広葉樹の固さを実感しまし た。午後からは公図とポケットコ ンパスを使って、沢沿いの長福寺所 有地を確認しました。公図では沢 沿いにスギヒノキが植わっている ところが2カ所に所有が分かれて おり、当初北側だけが長福寺の所

有と聞いていたので、じゃ南側 は?となってしまうところまでは 正確に測量できていました。その 後、住職さんにお願いしていた所 有林すべての地番が書いてある資料 を見せていただき、南側も所有さ れていることがわかり、前回まで にナンバリングした100本すべてが 作業対象であると確認できまし た。その後、道路から見えるとこ ろの竹を総出で切り出しました。 測量も楽しそうにあれやこれやと やっていましたが、やはり作業が 一番おもしろいようで、次から次 へと切り出し、平坦なところで枝 を払い、端のほうできれいに積ん でいくという流れ作業が自然にで きていたのはさすがという感じで す。また普段は参加していない生徒 会の生徒の前でちょっといいかっ こうしてやろう的な雰囲気もあり、 またそれも微笑ましくも中学生ら しい、自分たちの活動へのプライ ドがあるんだなと実感する一日で した。竹はもう1、2回の活動で 処理し終えそうですので、加えてど こからか生えてきたシュロ数本を 切ってしまえば、いよいよ間伐作 業に入れるのではないかと思いま す。住職さんとも間伐量を相談して いますので、その数の分、まずは 選木からしていきたいと思います。 選木の際にはフォレストクラスのみ なさんにしどうしてもらいなが ら、選木講習会と勝手に想像して おります。

宮村 連理(本会、副代表理事)

[定例活動]相模湖嵐山の森

1月15日(第三日曜日)

今回の編集もForest Nova☆五 味が担当いたします。一年間参加さ せていただき、やっと顔と名前く らいは覚えて頂けたように思います。 今年も楽しく活動できるよう頑張 ります。

まずはForest Nova☆活動報告です。今回は桜まつりのための材木の処理で皮むきと、カブトムシ牧場作りの続きです。皮むきでは木が凍っていて、かき氷を作っているようでした。カブトム





付けに利用できるかも。

ForestNova☆の活動は最近停滞 ぎみ・・・。今年はもっと活動を 盛り上げていけるように頑張ります。







生命の森宣言東京は1月の参加 者は4名でした。冷気と静けさに 包まれた嵐山A地区は、数年前に 比べてスギ・ヒノキが一回り以上 も大きくなった印象です。雪害で穴 が空き、欝閉(森林で隣り合う林 木の樹冠が相接してすき間がなく なった状態のこと)が破れた部分 もありますが、将来は広葉樹が埋 め合わせしてくれて針広混交林にな るのでしょうか。樹下に植栽され たトチノキの冬芽が輝いていました。 春を待つ若木に参加者全員が元気 付けられました。今月の作業は、 昨冬の雪で曲がり木になり回復で きなかったヒノキー本を間伐、枝 払い、玉切り。4人で入口付近の 沢の橋まで運搬しました。丸太の 重さは身体の奥に眠っている力を 引き出してくれました。歩道を巡回 し来月の修理を予定して作業を終 えました。 (報告:菅原修)

木工斑は、人数が足りないため、 午後から森林整備班に応援に来て もらい作業した。柱の根元を加工 し、コンクリート土台に嵌め込む 部分を削ったが、材の外側が腐り 始めていた。腐った部分を除去し、 硬い心材部分を土台の穴に合わせ た大きさまで削り、作業を終了と した。来月はもう一本の柱の根元









を削り、柱2本を建て、梁を上架する予定である。(報告:川田浩)

地球環境部は、今月からいよいよ電話線周りの間伐に取りかかった。伐倒方向を誤って電話線を切ってしまわないためにはチルホールによる誘導が必須のプロ2名からストクラスのプロ2名から大いただいてもらいなるとができた。3本目は日間できたののよったとができたもののよったで割かり木になってチルホールを使ってチルホールを使ってチルホールを使ってチルホールを使ってチャクを使ってチャクを使ってがありない。

たが滑車が引っ掛かってい ることに気づかず中学生が 無理に力をかけてしまった のでロープが切れ、外れた 滑車が牛徒の足に当たって しまった。大きなケガには ならなかったが、いわゆる ヒヤリハットであった。望 星の森を始めて12年、地 球環境部として7年活動し て初めてのことだった。中 高生という判断力や想像力 が未熟なメンバーを多く抱え ている我々にとってどれだ け危険を予測できるか、大 きな課題として残った。

(報告:宮村連理)

恒例の新年の安全祈願から平成29 年度の活動が始まる。森林整備班 の本日の取組みは、電線近くの立 木を電線に架らぬよう伐倒する方 法を中高生に教えること。午後か らは木工班で、資材小屋建築の柱 立てを手伝う。さらにお花畑班で は竹垣造りの手伝いをするなど、 人員不足を補うための助っ人が本 日の作業となった。電線近くの立 木の伐倒作業は、絶対に電線に架 ることの無いよう注意して伐倒す ることが最重要であり、電線と反 対側に伐倒するためにチルホール と滑車を今回使用した。使用方法 を森林組合上がりのプロ二人に指 導してもらいながら進めた。電線 に対し、90度方向の立木の根元に 滑車を掛け、そこから約45度方向 の立木にチルホールをセットし、 電線に90度方向で架り木の心配な い方向にチェンソーを入れる。こ の場合、ロープが架った三角形の中 には決して人を入れないこと、滑 車の近くやチルホールの周辺から人 を遠ざけることが肝要である。一 方チルホールのセットに関しては危 険があるため生徒さんには教えな かった。午後からのお花畑周辺の 竹垣作りについてはシュロ縄の「男 結び」に最も関心があったようだ。





木工班への作業手伝いは柱を基礎コンクリートに建てるためのホゾ切であった。柱になる材が長期間野外に放置してあったため、材の外側が腐りかけておりホゾを切るのが大変難しかったが、1本何とか仕上げた。森の中で安全に伐倒するための作業手順を何度も繰り返し、実践的に教えてこそ安全教育につながるものと確信した。柱立てる時カケヤで何度も強烈にたく残っため、翌日は筋肉痛がいたく残った。

東北地区では例年に無い大雪と 寒波の西高東低の典型的な冬型気 候の中、嵐山では寒気 も緩くその後に開催し た毎年恒例の「新年会」 も和気あいあいのうち に楽しく終えることが 出来ました。(報告: 小林照夫)

お花畑班は今回の活

動で、花壇の周りの竹 垣作りをされていまし た。竹を材に加工されて いる様子が印象的でした。竹に切 れ込みを入れて割る作業を、手際 よく行っているのを見て感動しま した。ヤーコンの栽培や竹垣作り





と、色々なことをされていて、 ForestNova☆も見習わなくては、 と思いました。

五味 輝史 (Forest Nova)

[報告]] 相模湖・若者の森づくりから

べ ForesTo Class

1月はお正月もあって嵐山での 定例活動のみになりましたが、午 前中は簡単なチルホール(牽引器具) の使い方講習を宮村先生をはじめ 中学生たちに行わせてもらい、午 後は去年に引き続き萩山地区で間 伐作業を行いました。

チルホール講習会では短い時間の中で習得は難しかったかもしれませんが、どんなものなか雰囲気は感じられたと思うので今後は自分たちでセッティングから使用できるまで習得していってもらえたら嬉しいです。また改めて講習会は開催する予定みたいなので教える自分たちも頑張りたいと思います!また萩山の間伐作業も大詰め





を迎え、あと数回で作業も完了するところまできたので、最後まで気を引き締めて無事に終わりを迎えられるよう努めていきたいと思います。

今年もForesTo Classとして色々な事に挑戦していこうと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

二藤 政毅 (ForesTo Class)

[報告2] 相模湖・若者の森づくりから ~Forest Nova

いくらか寒さも緩み、春の陽気も見え隠れする今日この頃、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。 ForestNova☆で麻布大学生命・環境科学部環境科学科四年の釜谷優太です。この度、来年度から地元の長野県佐久市で仕事をすることが決まりましたので、こちらでご報告させて頂きます。

麻布大学を一年間留年し、合計 五年間Forest Nova☆として活動 し、NPO法人緑のダム北相模の 方々や相模湖周辺の方々に良くし て頂き、本当に学ぶことが多い大 学生活だったと思います。

Forest Nova☆には、四月の最 初の全体ミーティングから参加さ せて頂き、五月に初めて嵐山定例 活動に参加させて頂きました。嵐 山の活動は一月一月で生える植物 や目の前を通る虫たちや空を飛ん だり鳴く声は聞こえる鳥たちが変 わっていき、非常に楽しい森でし た。地元が長野県ということもあ り、周り一帯は森や川がある自然 豊かな場所ですが、その中に入る 機会はほぼありませんでした。し かしForest Nova☆に所属し、 様々な分野に興味・関心を持つ先 **輩方と一緒に活動することで、私** も森自体や森に関わるもの、森に 関わるひと、森の活かし方など普 通の大学生活を送るだけでは絶対 に分からないことに興味・関心を 抱くことができました。

来年度からは地元の野菜を使っ た食品製造会社に携わるようにな



り、大学生の間でお世話になった 相模湖周辺の森に関わる機会は減 ってしまうかもしれませんが、プ ライベートや趣味の中で地元の森で 活動をしていきたいと思っていま す。

四年生になってからは、中々上 手くいかない就職活動やその他で の野外活動と日程が重なることも 度々あり、活動自体に行く回数が 例年に比べ減ってしまい、後輩た ちには大変迷惑をかけたと思いま す。

Forest Nova☆の雰囲気も私が 所属したときからだいぶ変わった かと思います。残り二ヶ月も無くな ってしまいましたが、後輩たちが 森でやりたいことをやれるよう尽 力していきたいと思います。

NPO法人緑のダム北相模や Forest Nova☆の活動はブログや Facebook、NLで毎月確認して、 行ける時は参加できるようしたい と思っているので、またその際は 宜しくお願いいたします。

約五年間お世話になりました。

釜谷 優太 (Forest Nova)



[報告3] 相模湖・若者の森づくりから 〜地球環境部

今回僕は同学年の友人2人と誘い合って活動に参加しました。そのうちの1人は学校が離れていて互いに忙しいこともあり、なかなか顔を合わせる機会がなく、久し振りに共に汗を流し作業の合間には昔の事や互いの現在について情報交

換することができました。互いが 別々の進路に向かっている中、森 が共通の目的であり居場所となっ ているのはとても意義深いことだ と思います。

また森での作業では自然と人との つながりを再確認できると感じま した。我々の身の回りには自然由 来のものが沢山ありますがそれを 実感することは難しいです。部屋に ある木の椅子1つとっても分解すれ ば一定量の木材になるということ までは誰にでもわかりますが、そ れが元をたどれば森の風景の1部と して風に揺られていたということを イメージすることは難しいでしょ う。しかし、実際に自分の手で木 を切り倒し、枝を払い、皮を剥く 中で(僕はまだ製材はしたことあり ませんが)徐々に日常の中で見慣れ たものに近づいていくのを見て、自 然と人の生活が一つながりだとい うことを肌で感じることができま した。これからもこの実感を大切 にしたいです。

> 桂川 陽佳 (東京都立西高等学校2年)

[報告4] 緑のダム・水質調査班

我々水質調査班の調査内容は、 相模湖の水・相模湖近くの林の外側に降る雨、いわゆる林外雨(緑のダム北相模集合場所)、林の内側に降る雨、いわゆる林内雨(嵐山の南沢)、農家の井戸水、林内雨を計測している場所と同じ位置にあって相模湖へと流れる渓流水、



そして商店街の井戸水の気温、水温、流量、水位、pH(水素イオン濃度)、EC(電気伝導率)、COD(化学的酸素要求量)、大腸菌群数、大腸菌数、13種のイオン、合計の22項目対して水質を計測しています。

相模湖の水は神奈川県全域の水 道水源であるにもかかわらず、夏季 になるとアオコが大量発生して CODで計測すると汚染状態になっ ていて驚愕しました。相模湖の水 は神奈川県民の生活の水の源とな っているために、このアオコの大 量発生状態について、「これで神奈 川県民に安全に水を供給できるの だろうか」と不安に感じました。 産業革命以来の長期間に渡る大気 汚染物質の森林への負荷と蓄積に よる森林の自浄能力低下と上流域 からの汚染負荷の中で、この相模 湖の安全性の維持・向上に努める には森林整備、地域間協力、市民 の関心・協力、水質調査が欠かせ ないと思いました。

1月の寒い中でも緑のダム北相模の皆様の果てしない活動に大変刺激を受けました。当日水質調査では、渓流水流量が多く、相模湖水の水質が大変良好で、皆のご尽力とお気持ちが通じったのではないかと大変嬉しく思いました。我々も毎月の水質をしっかり監視し、水質保全に向けて活動を続けていきたいと思います。

江口 詩門 (東京都市大学環境学部3年) 平沢 知也 (東京都市大学環境学部4年)



[報告5]

東海大高輪台高校SSH 参加者の感想から

嵐山に来るのは、今回参加した 定例活動で2回目になります。1回 目は、学校のSSHの活動で森林 実習に参加し、森の調査や木の伐 採などいろいろな体験をしまし た。また、森の空気は都会とは違いとてもきれいで清々しい気持ちになれました。

今回定例活動に参加して、自分の 祖父や祖母くらいの年の方から、 小学校の低学年の子まで幅広い年 齢の方々が参加していてとても驚き ました。午前中は、森の掃除など を行い、午後は木を2、3本切りま した。木を切ると大きな音が鳴 り、森の清々しさとはまた別の気 持ちになり、とても心が軽くなり ました。

今回、私はあまり積極的に活動できなかったので、今度はもっと自分から参加できるように頑張ります。

戸田 逸樹 (東海大学付属高輪台高校 1 年)

[報告6]

本会の積み木を使った イベントが行われました。

1月22日(日)小金井市の貫井北公 民館にて、「ピタゴラ・Re・スイッ チ」という小学生向けのイベントを 行いました。コンセプトは、エコ について一緒に学習しながら、身 近にあるエコ商品や環境について 考えられる物を使って、楽しくピタ



ゴラ装置を作ろうというものです。 このイベントの中では、間伐材を 使って作った積み木を装置のドミ ノ部分などに利用しました。

イベントは、東京学芸大学の環 境教育リーダー養成講座に属してい る学生が講師を務めました。まず アイスブレイクをして緊張を解いた あと、、4つの分野(農業・工 業・エコ商品・環境教育)につい てクイズを交えながらピタゴラ装 置のコンセプトを説明しました。 そしていよいよピタゴラ装置作り。 4つの分野に分かれて、それぞれ 装置作りをしました。楽しく作っ たあとは発表会。上手くいったグ ループもそうでないグループもあり ましたが、みんながそれぞれ楽し みながら環境について学習するこ とができました。第2弾もできれば やってみたいと思います。

長濱 俊哉 (東京学芸大環境教育専修2年)

参加にあたって:

初参加者は、9時15分までにJR 相模湖駅前集合してください。 服装、持ち物については、汚れ ても良い服装、着替え、滑らな い靴 成るべく皮製手袋、万一 の怪我に備えて保険証、飲料水、 主食、第3日曜は自分の食器 (お椀・お箸)

危機管理・救急対応:

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人 緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

そして、沢山の参加で森は、良くなる。 (台風の日は勉強会開催。18年間、 一日も休まず"継続は力"。) 名称:特定非営利活動法人 緑のダム北相模

事務局: 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人: NPO緑のダム北相模 事務局 Tel&Fax 03-3411-1636

支援団体:セブン-イレブン記念財団、22世紀やま・もり再生ネット

賛助団体:北都留森林組合、(株)トレカーサエ事、東海大学付属望星

高等学校、生命の森宣言・東京

協働団体:神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、(社)さがみ

湖 森・モノづくり研究所